

自由民権運動 1

征韓論(せいかんろん)に敗れた板垣退助(いたがきたいすけ)は、国民が政治に参加できるよう、1874年、後藤象二郎(ごとうしょうじろう)、江藤新平(えとうしんぺい)らと政治結社「愛国公党」(あいこくこうとう)作り、その後、民主的な議会の開設を望む「民撰議院設立建白書」(みんせんぎいんせつりつけんぱくしょ)を提出した。



『民撰議院設立建白草稿 (三種)』
明治7 (1874) 【古沢滋関係文書13】

自由民権運動 2

板垣退助(いたがきたいすけ)らの土佐への帰郷で愛国公党は解党する。1874年には板垣が土佐で立志社(りっししゃ)を結成し、1875年の大阪での日本初の全国規模の愛国社(あいこくしゃ)結成に発展する。



『立志社建白写』(三条家文書42-2)
明治10(1877)

自由民権運動 3

高まる自由民権運動に対し、政府は1875年に新聞紙条例を、1880年に集会条例をそれぞれ出して、言論の弾圧を強めていった。



家永三郎[ほか]『新しい日本の歴史』毎日新聞社
昭和25(1950)【児21-I-2】

自由民権運動 4

土佐の中江兆民(なかえちようみん)は、フランスの思想家ルソーの書を翻訳した『民約訳解(みんやくやっかい)』を出版し、自由民権運動を理論的に指導した。

〇第一章 本卷旨趣

昔在人之初生也、皆趨會由、已不仰人處分、是之謂自由之權、今也天下盡不免微纆之困、王公夫人之屬、自托人上、詳而察之、其蒙壟束、或有甚庸人者、曠自由權、天之所以與我、俾得自立也、而今如是、此其故何也、吾不得而知之也、但於棄其自由權之道、自有得正與否、焉、此余之所欲論之也

(解)是段一篇之大綱領、蓋以爲上古之時、邦國未建、制度未設、人々肆意爲生、無受人約束、自由權尤盛之候也、及邦國既建、制度既設、尊卑有常、貧富有別、

戎雅屈・婁騷 (ジャン・ジャック・ルーソー) 著
中江兆民訳解 『民約訳解 第1巻』 仏学塾出版局
明治15(1882) 【25-260】

自由民権運動 5

1880年の愛国社の大会では、国会期成同盟(こっかいきせいどうめい)が結成され、国会の開設を請願する署名が政府に提出されたが、認められなかった。



河野広中[他]『国会ヲ開設スル允可ヲ上願スル書』
明治13 (1880)【河野広中関係文書書類の部168】

自由民権運動 6

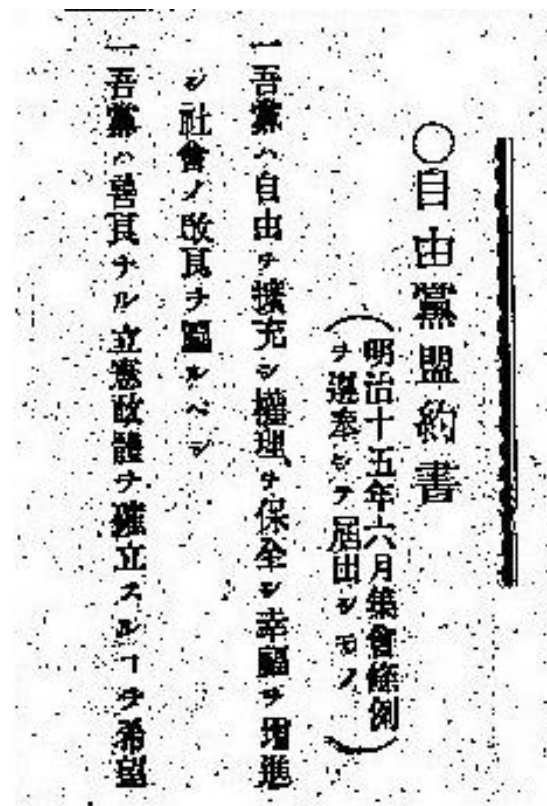
多くの政治結社は各地で演説会を行った。女性の権利を主張する岸田俊子(きしたとしこ)(のち中島湘煙(なかじましょうえん))などもいた。



相馬黒光『明治初期の三女性：中島湘煙・若松賤子・清水紫琴』厚生閣
昭和15(1940)【GK13-500】

自由民権運動 7

憲法の制定や国会の開設を目指して二つの政党が結成された。1881年結成の板垣退助(いたがきたいすけ)を党首とする自由党と、1882年結成の大隈重信(おおくましげのぶ)を党首とする立憲改進黨(りっけんかいしんとう)である。



『自由党史』中島七右衛門
明治23(1890)【特48-545】

自由民権運動 8

川上音二郎(かわかみおとしろう)が自由民権思想を広めるため歌い出した「オツペケペ節」が流行した。

オツペケペー
○ 権利幸福きらいな人に。自由湯とば飲まし。
オツペケペツポーメツポーポー。
○ 堅い上下角どれて「マンタル」「ツボン」は人
オツト。貴女に紳士のいでたちで。うわべの
の思想が欠乏だ。天地の眞理が解らない。心に
ツメケペ。オツペケペツポーメツポーポー。
○ 不具氣極る今日に。細民困窮者みず。目淫

井上勝五郎編『面白をかし』
明治24(1891)【特64-916】